

生活保護切り下げに反対し声をあげる参加者=19日、国会内



生活ぎりのぎり■早く死ねか

保護費削減方針に当事者切々

安倍政権が1基約1000億円とする「イジス・アシヨア」の基導入を閣議決定する一方で、2018年10月から「生活扶助」や「母子加算」など生活保護費全体で160億円の削減を厚生労働省が決定したことに対し、当事者や支援者らは19日、方針の撤回を求める緊急集会を国会内で開きました。約160人が参加し、抗議の声をあげました。「もうひとつの生活保護基準部会」実行委員会の主催。

国会内で抗議集会

生活保護問題対策全国会議代表幹事の尾藤廣喜弁護士は「当事者の意見をまったく聞かない。勝手に考えた数字を操作しただけの提案だ。引き下げは絶対に認められない」と強調しました。

生活保護を利用し、小学生から高校生の子どもを単身で育てている女性は「毎日、何を食べたらいいのかばかり考えている。子どもは『これは靴なの？』というほど擦り切れたものを履いている。子どもに毎日切りつめないと生活できないと考えるのはおかしい」と声を振り絞りました。

病気の人は早く死んでくれといわんばかりだと語りました。

病気を抱え、生活保護を利用し就職活動中という女性は「本当に

生活保護を利用し、小学生から高校生の子どもを単身で育てている女性は「毎日、何を食べたらいいのかばかり考えている。子どもは『これは靴なの？』というほど擦り切れたものを履いている。子どもに毎日切りつめないと生活できないと考えるのはおかしい」と声を振り絞りました。

病気の人は早く死んでくれといわんばかりだと語りました。

病気を抱え、生活保護を利用し就職活動中という女性は「本当に

ぎりぎりの生活。明日が来なければいいと願いながらの生活で、生きていくといえるのか」と断えました。

日本共産党、立憲民

あいつつしました。

主党の国会議員が参加。共産党からは高橋千鶴子衆院議員、田村智子副委員長・参院議員が出席で、田村氏が